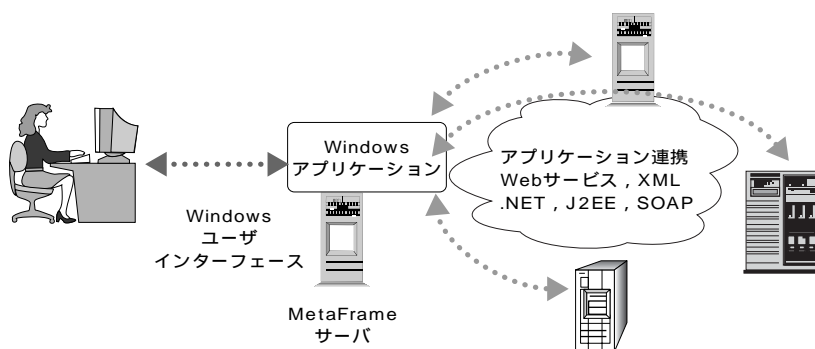


はじめに

Webコンピューティングは、システム管理の面でクライアント/サーバ・システムより優れています。アプリケーション・プログラムをサーバに集中できるからです。しかし、Webコンピューティングを声高に提唱している人でも、実際はWindowsのアプリケーションを使っています。ユーザインターフェースのインタラクティブ性で、Windows画面のほうがHTML画面より優れていることを、キーボード上の指先が知っているからです。

そのWindowsのアプリケーションをサーバで動かしたらどうでしょうか？ Webコンピューティングと同じく、システム管理の手間が軽減されます。Windowsのインタラクティブ性も引き続き享受できます。これがサーバ・ベース・コンピューティング（SBC）です。

企業間の複数アプリケーション間の連携モデルとして、今、大きくWebサービスが提唱されています。そのWebサービスを導入しても、アクセス系にはWindowsユーザインターフェースが下図のように採用されるでしょう。入力が多い基幹業務ではインタラクティブ性が重視されるからです。



MetaFrameの導入を検討されているITシステム関係者は多いと思います。ところが、MetaFrameの導入、管理、運用に関して実践的立場で書かれた解説書が今までなく、多くの疑問、不安、誤解が鬱積していたと思います。本書は、MetaFrameを中心としたサーバ・ベース・コンピューティングに関する多くの疑問に答えようという趣旨で書かれました。MetaFrameの普及にたずさわってきた現場の立場からのノウハウをぎっしり盛り込んだ解説書です。MetaFrameを導入された方でも、「フムフム、そうすればよいのか」という運用上のヒントが得られると思います。

Windowsユーザインターフェースのままでアプリケーションをサーバへ集中し、複数のサーバを地理的に集中すると、読者の皆さんが関与されているITシステムが、ぐ~っとステージアップできることがお分かりになると思います。「システム経費の節減を考えている方」、「システム管理の煩雑性に悩んでいる方」、「先進的な機能を取り入れシステムのレベルアップを企画している方」、是非、ご一読ください。